

新設歯科疫学研究会への誘い^{いざな}

瀧 口 徹

The Invitation to the CDE ; The Circle of Dental Epidemiology

Toru Takiguchi

1. 発足のエピソード1

来る平成16年2月21日、深井保健科学研究所三郷研究会のランチとして歯科疫学研究会（CDE;The Circle of Dental Epidemiology）を発足する運びとなった。発足にあたりそのエピソードを紹介しておきたい。平成3年から6年にかけて3年余私が国立公衆衛生院疫学部（現国立保健医療科学院疫学部）に所属していた折り、機会あって中華人民共和国江西省南昌市で歯科疫学調査^{1,2,3)}を行った。この際、「まず形から入る」ということで中国の特産品の石で歯科疫学研究会会長印（写真1、2）を現地で作製した。帰国後歯科疫学研究会発足の準備をしていたが、平成6年5月厚生省（当時）本省に召還され研究職から行政職になったため会長印は10年間目の目を見ないままとした。期せずして10年目の平成16年2月1日から再び研究職に返り咲く予定となったのを契機に夢を実現することとした。この10年の間に歯科疫学に関する研究は口腔ケアと全身の関連等で目覚ましい進展があった。従来敬遠された医科と歯科の狭間研究の幕開けである。そして最も高い評価を受けた研究は口腔ケアが要介護者の発熱と肺炎を予

防するという、gold standard であるRCT法（Randomized Controlled Trial）を用いた米山、佐々木ら



写真1（歯科疫学研究会会長印鑑）

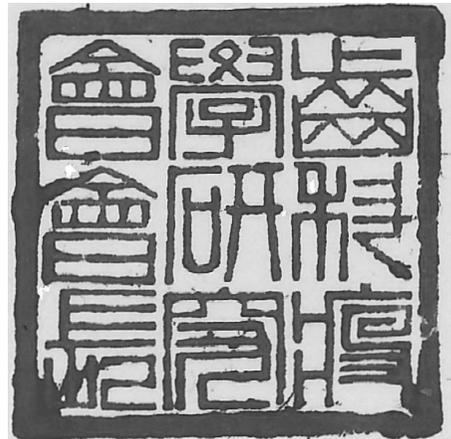


写真2（歯科疫学研究会印）

【著者連絡先】

〒100-8045 東京都千代田区霞が関1-2-2
厚生労働省医政局歯科保健課長 瀧口 徹
TEL：03-5253-1111 FAX：03-3595-8687
(但し平成16年1月31日まで)

の臨床疫学研究^{4,5)}であるが、研究者の構成が開業歯科医師と医科大学のチーム研究、という点でも新しい時代を象徴するものであった。また本会の親組織である深井保健科学研究所もまた歯科保健・医療の行動科学をキーワードとして独自の世界を開発しつつある。このように研究は大学で、しかも各専門ごとにとり従来からの研究原則へのアンチテーゼとして情報化時代の波はまさに歯科の研究分野にも「エジソンの時代」⁶⁾を到来させつつある。

2. 本研究会が行う歯科疫学研究の特徴

もとより疫学の定義と守備範囲には歴史的に様々な見解^{7,8)}があり確定しているわけではないので、必然的に歯科疫学の定義と守備範囲は議論のあるところである。例えば患者の歯科保健・医療行動の研究は歯科疫学か？とか、口腔と全身機能との関連の研究は歯科疫学と括弧してしまっているか？とかである。また何であれ歯科疾患に関連するものは全て歯科疫学であるとの考えも成立する。また疫学の問題解決の方法論に着目すると疫学の語源である流行病だけでなく流行現象にも有効で、例えば交通事故対策も疫学の方法を使えば効率的に行うことができる。果たして歯科疫学とは何ぞや。しかし、この論議はいわゆる神学論争になってしまうので本研究会では下記のようにすることとした。むろん学問体系を構築したわけではないので先達諸兄のお許しを願いたい。

本研究会で行う歯科疫学研究の定義と守備範囲：

- I. 野外（フィールド）または臨床において行う
歯科疾患の原因と予防対策の調査・研究
- II. 歯科疾患と全身疾患または全身的機能との因果関係に関する調査・研究
- III. 疫学的手法を用いた歯科保健・医療の行動学、
経済学の調査・研究
- IV. EBM（EBD、EBHP等）手法に関する調査・
研究

上記に属さないもの、すなわち基礎研究、国内外における歯科保健・医療の実態調査および歯科保健・医療計画の立案と評価、8020運動、健康日

本21の評価等Health Policyに関してより実践的なものは本体である三郷研究会において行うこととなる。もとより両研究会の守備範囲は当然重なりがあるし、また既存の研究組織（厚生労働科学研究等）との直接、間接の関連が出てくる。それ自体何ら問題にはならないが、参加者の混乱を回避するため新たに創設する歯科疫学研究会はその機能の特徴として

機能の特徴

- F1：疫学的思考に関する自己研鑽に資する研究討議を行うことを主眼とする。
- F2：独自予算で独自の調査・研究をする。
- F3：研究は狭義の歯科関係者のみならず医師、薬剤師、栄養士等と連携することにより研究の質を高める。
- F4：他研究組織の研究に組織としては参画しない。
- F5：しかし、他研究組織の研究者の個々の求めに応じて下記AF1、2の支援を行う。
- F6：海外の雑誌に積極的に発表する。
- F7：三郷研究会の主旨に沿い研究者間の親睦をはかる。

研究事業

- 1) 定例セミナー開催；当面の間、隔月で深井保健科学研究所（本部）と都内会場で隔月交代でセミナーを行う。開催曜日と時間は平日の夜（7：00～9：00）または土曜日1：00～3：00を考えている。
- 2) 特別セミナー開催；年1回以上著名な疫学研究者を招いてのセミナーの開催
- 3) 付加的事業
付加的機能として会員、非会員を問わず主席幹事（瀧口）と幹事が主体となって
AF1：調査法に関する事前相談
AF2：調査結果のデータ解析に関する相談
ここでAF1、2の支援事業は単なる支援事業ではなく指導者側にとっていわば他流試合の効果が
あり実践力を養成する上でうってつけの手段と考えるからである。

なお、相談費用は無料であるが、解析支援を伴

うような場合は実費がかかる場合がある。

3. 研究会への誘い

1) 定例セミナーへの参加

原則として会員のみ参加できる。三郷研究会会員は規約上自動的に歯科疫学研究会会員である。従ってこの誘いは会員募集ではなくセミナーへの参加である。毎月三郷研究会ホームページの掲示板にセミナー開催予定を掲載するので掲示板上で1週間前までに事前登録いただきたい。セミナーの効率とセミナー会場の収容能力の関係で先着20名に限らせていただく。

2) 特別セミナーへの参加

会員、非会員を問わず参加できる。但し、非会員の場合若干の参加費を当日いただくことになるのでご承知おきいただきたい。三郷研究会ホームページの掲示板に特別セミナー開催予定を掲載するので掲示板上で1週間前までに申し込みいただきたい。セミナー会場の収容能力の関係で事前に予告した員数（50～100名程度）に限らせていただく。

3) 事前相談、解析相談

現時点では体制が整っていないので半年後をめどに改めて提示したい。

4) お願い

なお、事前に著者の最近の統計・疫学関連の総説^{8,9,10)}をセミナー前にご一読していただければ幸いである。

5) 本研究会に関する紹介・連絡のホームページアドレス（深井保健科学研究所）

<http://www.fihis.org/>

付記) 会則は本巻添付の資料を参照のこと

文 献

- 1) 箕輪眞澄・瀧口徹・青山旬・梅家模；厚生省健康政策調査研究事業歯と全身との関連に関する総合的研究班（主任研究者:中垣晴男），平成3年度研究報告：1994
- 2) 高德幸男・瀧口徹・小林清吾・矢野正敏・筒井昭仁・張旌旗・関原敬・堀井欣一；「咀嚼機能に及ぼす加齢の影響について」，日本咀嚼学会雑誌，4巻1号：41-50，1995
- 3) 榊原悠紀太郎監修，石井拓男，安井利一編；瀧口徹；「咀嚼機能減退のリスク要因を考える」「8020地域歯科保健活動の現場から」，「咀嚼機能減退のリスクファクターについて—中華人民共和国江西省における義歯・橋義歯未装着成人を対象として—」186-191,日本歯科評論社：東京；2001
- 4) 米山武義；口腔ケアと誤嚥性肺炎予防の可能性，日本歯科医師会雑誌，55巻2号,15-24，2002
- 5) Takeyoshi Yet al.(2002). Oral Care Reduces Pneumonia in Older Patients in Nursing Homes. JAGS;Jounal of American Geriatrics Society, 50: 430-433.
- 6) 瀧口 徹；「歯科保健・医療研究は今エジソンの時代」，ヘルスサイエンス・ヘルスケアVol.1, No.17-8，2001
- 7) 柳川 洋編；疫学マニュアル，南山堂，東京，2000.
- 8) John M. Last編，重松逸造，春日 斉，柳川 洋監訳；疫学事典，日本公衆衛生協会,1987.
- 9) 瀧口 徹；「EBMのための（臨床）疫学・統計学的基礎（1）」第1章統計の基礎；一部のデータから全体を推定する，障害者歯科学雑誌，23巻：1-10，2002
- 10) 瀧口 徹；「EBMのための（臨床）疫学・統計学的基礎（2）」第2章疫学の基礎；流行病の法則性を見つけ予防する，障害者歯科学雑誌，23巻：89-98，2002
- 11) 瀧口 徹；「EBMのための（臨床）疫学・統計学的基礎（3）」，第3章EBMの基礎；臨床疫学の最近の潮流とポイント，障害者歯科学雑誌，23巻：443-458，2002

The Invitation to the CDE ; The Circle of Dental Epidemiology

Toru Takiguchi

(Director, Dental Health Division, Health Policy Bureau, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan)

We newly organized CDE:the Circle of Dental Epidemiology under FIHS; the Fukai Institute of Health Science from Feb. 21, 2004. The main aims of the new circle for researching the dental epidemiology are as follows;

1. The researches on causalities of dental diseases or countermeasures against dental diseases in the field investigations or clinical trials.
2. The researches on the relationship between oral status and general conditions.
3. The researches on dental behaviors or dental economics using the epidemiological methodology.
4. The researches about the methodology on EBM; Evidence Based Medicine.

The additional supports for beginners conducted by the executives of CDE are consultations about dental epidemiological investigations or analyses .

The seminar is usually held every month at the Institute of Health Science or other place in Tokyo., and special expanded seminar by famous epidemiologists is held every year. If you want to participate in the CDE, please contact and register at the Fukai Institute of Health Science.

(<http://www.fihs.org/index.html>)